

2011特別見学ツアー報告書

[吉野山周辺]

吉野山へ向かっていくと正面の中腹に吉野仏舎利塔が見える



これぞまさしく珍しい宝塔形式の吉野仏舎利塔である



大岡作品では同形のものはいギリスミルトンケインズの仏舎利塔のみである(ロンドンの仏舎利塔は多宝塔形式)

さあ仏舎利塔へ急ごうとしたところ、何とこの先は今回の大雨災害の影響で通行止めとなっていた/やむを得ずこの周辺の社寺を廻ることとあいなった



ちなみに正面は後醍醐天皇陵と記された石柱

東南院山門



東南院

当院の開基も、修験の吉野山にふさわしく、役行者という伝承をもっている。千三百年の歴史があるわけですが、奈良や比叡山など古い霊地霊山には、東南院あるいは東南寺という名の、寺院があるのが普通ですが、これは、開基または始祖といわれる人が、その霊地を開くときに、中心になる伽藍を建てると同時に、そこから美濃の方角に当る所に寺を建て、一山の阿隆を祈願するということが行われていました。これで当院が吉野山で占める位置が、了解できるかと思えます。

当院は本尊多宝塔、産神、客殿からなっていますが、多宝塔は明治初年まで、紀伊野上の八幡宮の境内にあつたのを、昭和十二年に当院へ移したもので、正面の鯉口には永禄七年（一五六四）の銘があり、鎌倉期の作と伝える大日如来毘沙門天不動明王などが祀られています。

なお当院は宿坊といって、一徹の寺とはちがう一面があります。昔吉野山には数多くの宿坊がありましたが、これは吉野山から大室山へ登る、大勢の修験行者が参詣する所できびしい修業の中での、しばしの憩いの場となっていました。



東南院

当院の開基も、修験の吉野山にふさわしく、役行者という伝承をもっているので、千三百年の歴史があるわけです。奈良や比叡山など古い霊地霊山には、東南院あるいは東南寺という名の、寺院があるのが普通ですが、これは、開基または始祖といわれる人が、その霊地を開くときに、中心になる伽藍を建てると同時に、そこから巽(東南)の方角に当る所に寺を建て、一山の興隆を祈願するということが行われていました。これで当院が吉野山で占める位置が、了解できるかと思えます。

当院は本堂・多宝塔・庫裡・客殿からなっていますが、多宝塔は明治初年まで、紀州野上の八幡宮の境内にあったのを、昭和十二年に当院へ移築したもので、正面の鰐口には永禄七年(一五六四)の銘があり、鎌倉期の作と伝える大日如来・毘沙門天・不動明王などが祀られています。

なお当院は宿坊といって、一般の寺とはちがう一面があります。昔吉野山には数多くの宿坊がありました。これは吉野山から大峯山へ参る、大勢の修験行者が参籠する所、きびしい修業の中での、しばしの憩いの場となっていました。

参考ホームページ

http://daiki-l.co.jp/sekai_isan/006_tonanin.html

<http://www12.plala.or.jp/HOUJI/otera-3/newpage511.htm>

本堂





多宝塔/江戸時代初期



参考ホームページ

<http://www.geocities.jp/kawai5510/nara-tounanin.htm>







庫裡・客殿か





次はすぐ近くの金峯山寺



参考ホームページ

http://daiki-l.co.jp/sekai_isan/004_kinpu_senji.html

<http://www12.plala.or.jp/HOUJI/otera-3/newpage507.htm>





至 脳天大神龍王院
水子地藏宝泉坊

役行者像

仏舎利宝殿

南朝妙法殿

吉野朝宮址碑

不動窟

研修道場

金峯山寺境内図

【仏教新発見】6月号掲載 朝日新聞社/ジェイ・マップ



二天門跡/正面左手に「村上義光公忠死之所」と刻まれた石碑が見える



後醍醐天皇導きの稲荷



後醍醐天皇導きの稲荷

元弘中、この対立が激しくなつて、やむをえずひそかに京都の花山院を脱出された後醍醐天皇は、延元元年（二三三二）七月二十八日吉野山の行宮（仮の宮）にお着きになることになりました。

途中夜道に迷われたとき、とある稲荷社の前で

むば玉の暗き閑路に迷うなり、

我にかさなむ三つのもし火

とお詠みになると、ひとむらの紅い雲が現われて、吉野への臨幸の道を照らしてお導きをし、その雲は金の御岳（吉野山）の上で消え失せたといひます。（吉野拾遺）

その稲荷を勧請したのがこの「導きの稲荷」です。

人びとに心の迷いがあるとき、この神にお祈りすると、おのずから道が開けるといふ言い伝えがあります。

毎年十二月八日御例祭が行われて賑わいます。

吉野町

扁額に「導之稻荷社」とある



正面は蔵王堂(国宝)/手前には四本桜と銅灯籠/右手は手前から愛染堂、観音堂と並ぶ



四本桜・銅灯籠

蔵王堂正面の右の柵に囲まれた中に、桜の木が四本植えられています。ここは元弘三年(二二二二)閏三月三日、後醍醐天皇の第二皇子、大塔宮護良親王もりながが北条幕府の大軍に攻められて、吉野山にたてこもられたとき、ここ蔵王堂を本陣とし、落城に際していま四本桜のある前庭で、最後の酒宴を開いたところです。後世ここに桜を植え、大塔宮御陣地として記念されている所です。

柵の中に青銅の灯籠がありますが、これは文明三年(四七二)に妙久禅尼という尼さんが寄進したもので、室町時代の秀作として、重要文化財に指定されています。



1592年頃の再建



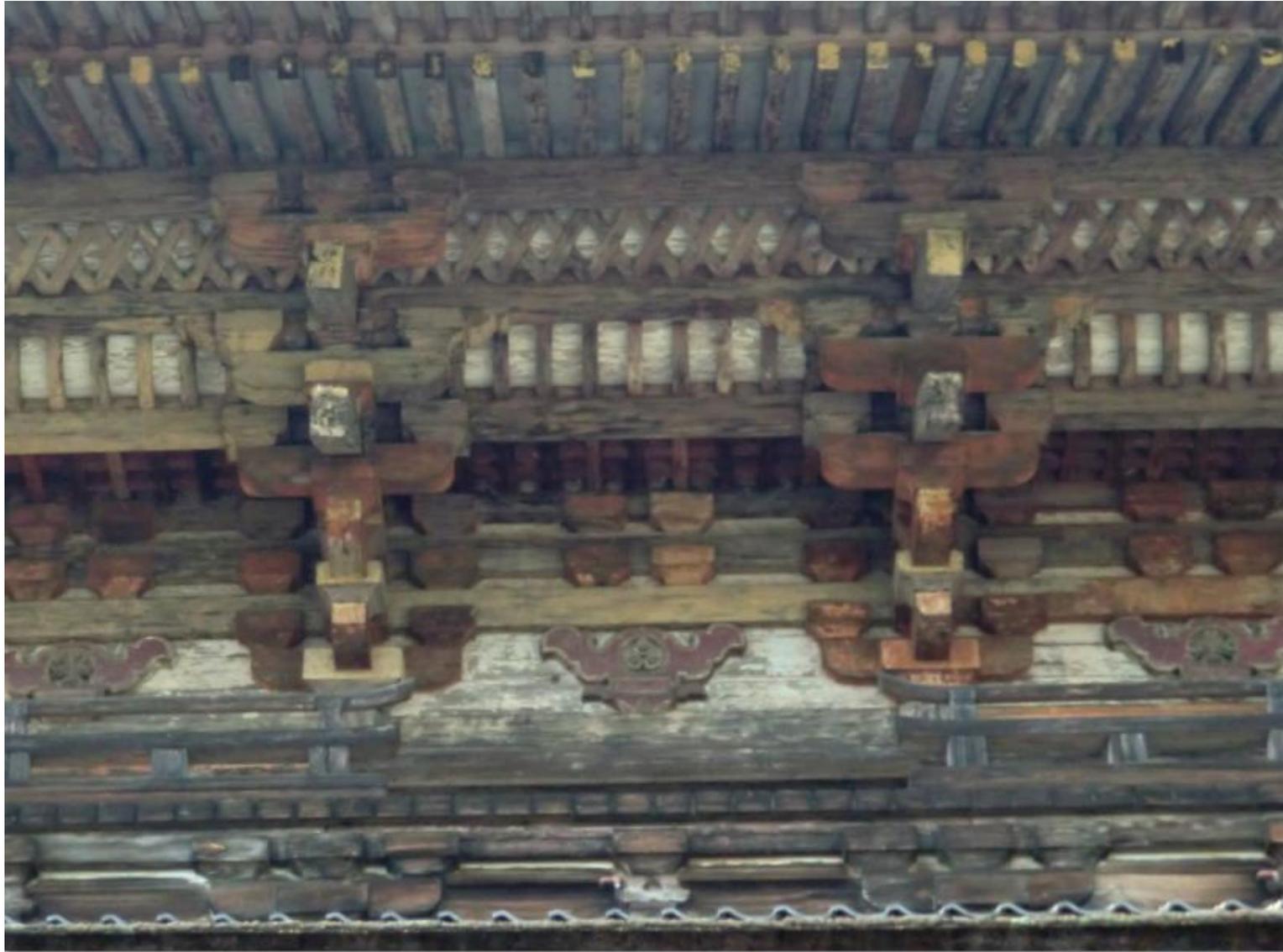


手前に銅灯籠(1471年造立/重要文化財)がある



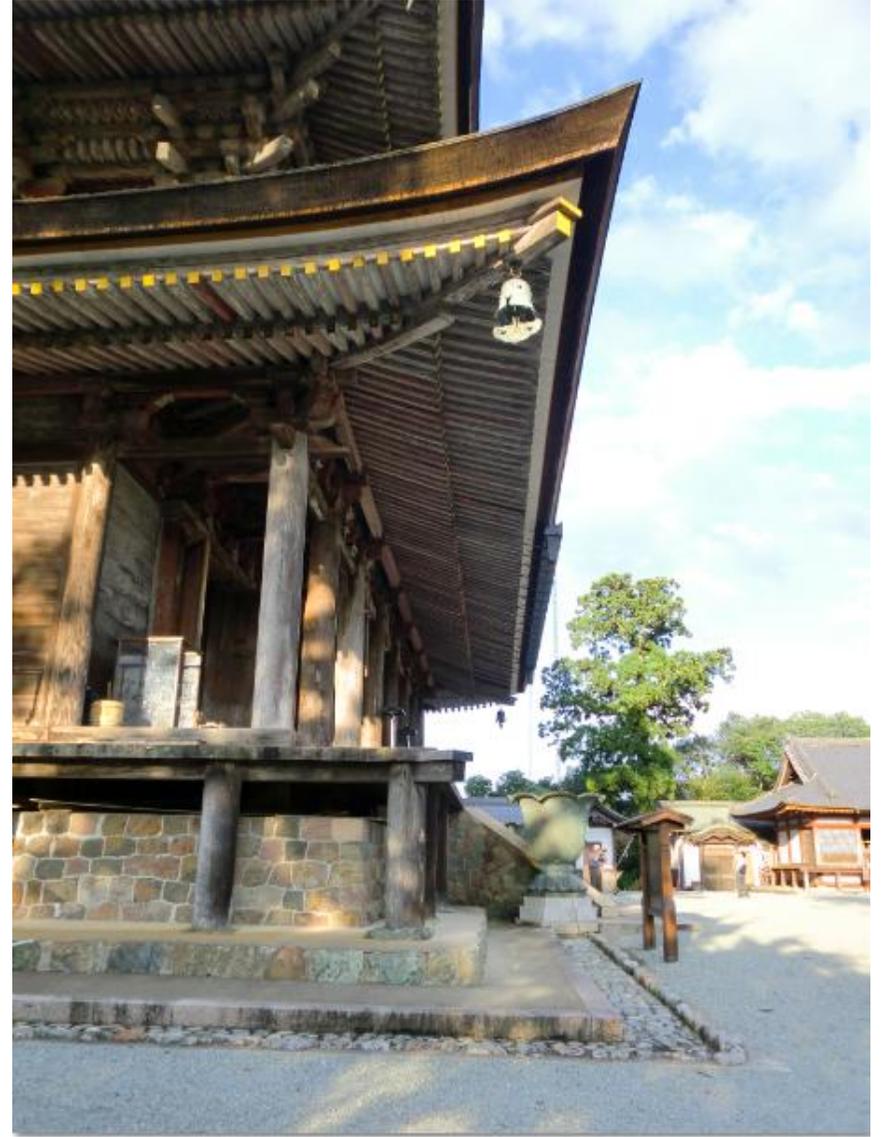






本堂左脇の鐘楼









威徳天満宮/奈良県文化財





威徳天満宮（県指定文化財）

この神社は、天満神社ともいい、菅原道真を祭神としています。社伝によると、平安時代の天徳三年九月五日に鎮座したとされています。

この神社の由緒は、今から千年あまり昔、椿山寺（竹林院の前身）で出家した日蔵道賢（如意輪寺の開基）という僧が、大峯山中の笠の窟という所で修行中のある日、急に仮死して間魔宮へ行つてしまひ、そこで冥土をさまよつてゐる天子の衣冠を着けた人に出会つたので、わけをきくと「自分は延喜の帝一醍醐天皇」である。生前は善政を行つたつもりだが、ただ藤原時平の告げ口によつて、菅原道真を九州の太宰府へ流してしまつた。その罪によつて死後の苦しみに会つてゐる。生前、私が師と仰いだ上人よ、再び生き返つて道真の霊をまつて欲しい。そうしたら私はこの苦しみから救われるだろう。」といわれたと思つと、日蔵はこの世によみがえりました。日蔵上人は修行を終えると吉野山に帰り、威徳天満宮としてまつたのが、この社殿であると伝えられています。

この社殿は、桃山時代の様式をよく伝えているので、豊臣秀頼の改修によるものと云われています。現社殿は、平成十年九月に当地を襲つた台風七号により大被害を受けましたが、平成十三年に多くの方々のご助力により復旧したものです。

威徳天満宮（県指定文化財）

この神社は、天満神社ともいい、菅原道真を祭神としています。社伝によると、平安時代の天徳三年九月五日に鎮座したとされています。

この神社の由緒は、今から千年あまり昔、椿山寺（竹林院の前身）で出家した日蔵道賢（如意輪寺の開基）という僧が、大峯山中の笙の窟という所で修行中のある日、急に仮死して間魔宮へ行ってしまい、そこで冥土をさまよっている天子の衣服を着けた人に出会ったので、わけをきくと「自分は延喜の帝（醍醐天皇）である。生前は善政を行ったつもりだが、ただ藤原時平の告げ口のよつて、菅原道真を九州の太宰府へ流してしまった。その罪によつて死後の苦しみに会っている。生前、私が師と仰いだ上人よ。再び生き返つて道真の霊をまつて欲しい。そうしたら私はこの苦しみから救われるだろう。」といわれたと思うと、日蔵はこの世によみがえりました。日蔵上人は修行を終えると吉野山に帰り、威徳天満宮としてまつたのが、この社殿であると伝えていきます。

この社殿は、桃山時代の様式をよく伝えているので、豊臣秀頼の改修によるものと云われています。現社殿は、平成十年九月に当地を襲った台風七号により大被害を受けましたが、平成十三年に多くの方々のご助力により復旧したものです。



神楽殿





観音堂









正面は愛染堂





ここからも遠方に吉野仏舎利塔が見える











「久富大明神」とある







岩
大坂古九條講創立二百五十年記念塔

岩
金剛院主女僧現
大坂海老江講創立百五拾年記念塔
高田仲長 大坂海老江中
大坂海老江中

岩
丹波岩講創立百八十年記念塔
丹波岩講創立百八十年記念塔
高田仲長 大坂海老江中
大坂海老江中

岩
金田田林阪大講創立二百五十年記念塔
金田田林阪大講創立二百五十年記念塔
高田仲長 大坂海老江中
大坂海老江中

二天門跡/左手が「村上義光公忠死之所」と刻まれた石碑



四本桜・銅灯籠

蔵王堂正面の右の欄に囲まれた中に、桜の木が四本植えられています。ここは元弘三年(三三三三)四月三日、後醍醐天皇の第二皇子、大塔宮護良親王が北条義時の大軍に攻められて、吉野山にたてこもられたとき、ここ蔵王堂を本陣とし、落城に際していま四本桜のある前庭で、最後の酒宴を開いたところです。後世ここに桜を植え、大塔宮御陣地として記念されている所です。

欄の中に青銅の灯籠がありますが、これは文明三年(四七二)に妙久禪尼という尼さんが寄進したもので、室町時代の秀作として、重要文化財に指定されています。

二 天門跡

いま村上義光公忠死之所と刻まれた石碑のあるところが、天門(これが蔵王堂の正面か)といわれ、元弘三年(三三三三)吉野落城の際、前庭での酒宴も終り、いざ決戦というとき大塔宮の家来の村上彦四郎義光が、宮の殿兜を身につけて、その身代りとなって天門上へかけ上り、腹を文字にかき切つて壮烈な最後をとげたのでした。大塔宮はこのすきに、勝手神社横の谷を抜け、無事高野山へ落ちのびることが出来ました。

歌書よりも 軍書に悲し 吉野山
とうたわれる、吉野山の悲劇的な歴史のページがここであ
うかがえます。

吉野町

二 天門跡

いま村上義光公忠死之所と刻まれた石碑のあるところが、二天門（これが蔵王堂の正面か）といわれ、元弘三年（二三三三）吉野落城の際、前庭での酒宴も終り、いざ決戦よろいかなとというとき大塔宮の家来の村上彦四郎義光が、宮の鎧兜を身につけて、その身代りとなって二天門上へかけ上り、腹を二文字にかき切つて壮烈な最後をとげたのでした。大塔宮はこのすきに、勝手神社横の谷を抜け、無事高野山へ落ちのびることが出来ました。

歌書よりも 軍書に悲し 吉野山

とうたわれる、吉野山の悲劇的な歴史の二ページがここです。
うかがえます。

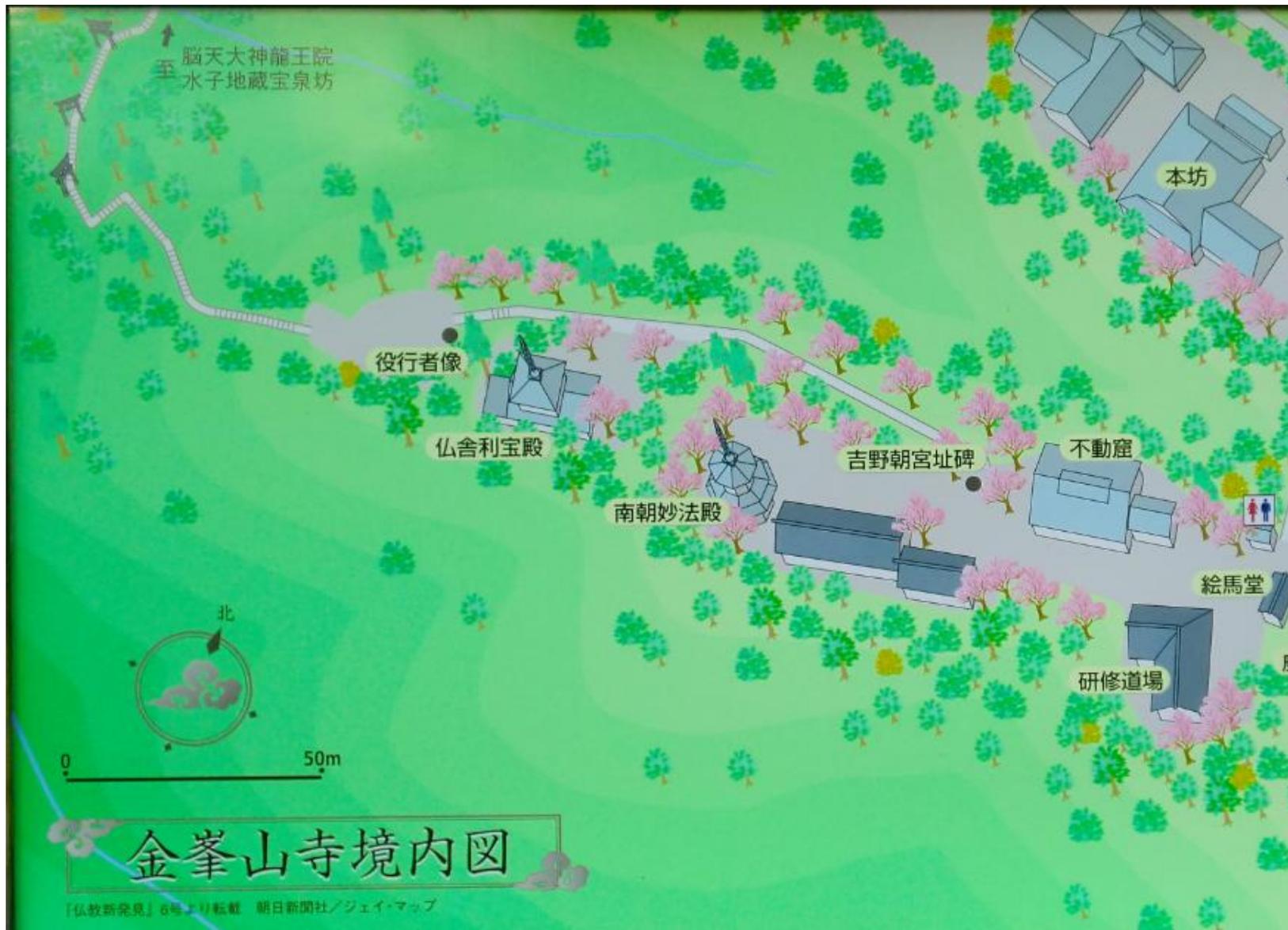
吉野町

立派な宝篋印塔



ここからこんな建物も見た(吉野山ビジターセンター)





ここを進むと吉野朝宮址碑がある



吉野朝宮跡

このところが、かつての南朝（吉野朝廷）の皇居跡で、元は実城寺という寺でした。

この付近には大小二十にも及ぶ寺院がありましたが、その中でも最も広い実城寺が行宮（仮りの宮）とされ、当時足利幕府と北朝に対抗する南朝方の拠点として、後醍醐天皇の御座所となっていました。

延元元年（三三六）十二月二十日、京都の花山院をひそかにのがれた天皇は二十八日吉水院宗信らに迎えられ吉水院に身を寄せられましたが、延元四年（三三九）八月病いに侵されて、御年五十二歳で悲運の生涯を閉じられたのでした。

徳川時代になると幕府は、金輪王寺の寺号を没収して日光に移し、元の実城寺となつて明治を迎えましたが、廃仏の嵐にあつて廃寺となつてしまいました。

吉野町

吉野朝宮跡

このところが、かつての南朝(吉野朝廷)の皇居跡で、元は実城寺という寺でした。

この付近には大小二十にも及ぶ寺院がありましたが、その中でも最も広い実城寺が行宮(仮りの宮)とされ、当時足利幕府と北朝に対抗する南朝方の拠点として、後醍醐天皇の御座所となっていました。

延元元年(二三三六)十二月二十二日、京都の花山院をひそかにのがれた天皇は二十八日吉水院宗信らに迎えられ吉水院に身を寄せられましたが、延元四年(二三三九)八月病いに侵されて、御年五十二歳で悲運の生涯を閉じられたのでした。

徳川時代になると幕府は、金輪王寺の寺号を没収して日光に移し、元の実城寺となって明治を迎えましたが、廃仏の嵐にあつて廃寺となつてしまいました。

絵馬堂



不動産



不動窟



研修道場



南朝妙法殿



















仏舎利宝殿









世界遺産

金峯山寺仁王門(二王門)

Kinpusenji Temple Niomon Gate

紀伊山地の霊場と参詣道

概要

金峯山寺は、延暦寺の別当、阿闍梨行基が聖徳太子の御影を祀り、天智5年(686)に創建したとされる。境内には、聖徳太子の御影を祀る金峯山寺本尊の御影堂(金峯山寺本尊御影堂)があり、その御影は、聖徳太子の御影とされる。また、境内には、聖徳太子の御影を祀る金峯山寺本尊の御影堂(金峯山寺本尊御影堂)があり、その御影は、聖徳太子の御影とされる。

National Treasure - Kinpusen-ji Temple Niomon Gate

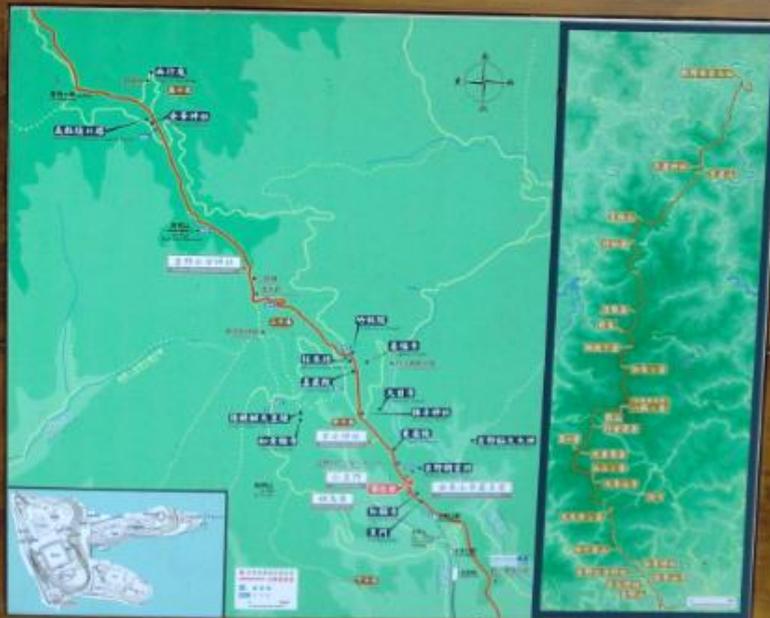
Although the year of the original gate's construction is unknown, the present structure is believed to date back to the 10th or 11th century. The gate is one of the most important cultural properties in the area. It is a wooden gate with a central archway and two side archways. The gate is made of dark wood and is surrounded by a stone wall. The gate is located on a hillside and is a popular destination for pilgrims.

국보 (仁王門의 성문) (사유증)

국보 제100호인 금봉산사(延暦寺)의 仁王門(二王門)은 10세기 또는 11세기경에 건립된 것으로 추정된다. 이 성문은 1973년(국보 제100호 지정)에 국보로 지정되었다. 이 성문은 1973년(국보 제100호 지정)에 국보로 지정되었다. 이 성문은 1973년(국보 제100호 지정)에 국보로 지정되었다.

歴史背景と文化財

金峯山寺は、延暦寺の別当、阿闍梨行基が聖徳太子の御影を祀り、天智5年(686)に創建したとされる。境内には、聖徳太子の御影を祀る金峯山寺本尊の御影堂(金峯山寺本尊御影堂)があり、その御影は、聖徳太子の御影とされる。



仁王門(国宝)/右手は本堂(蔵王堂)

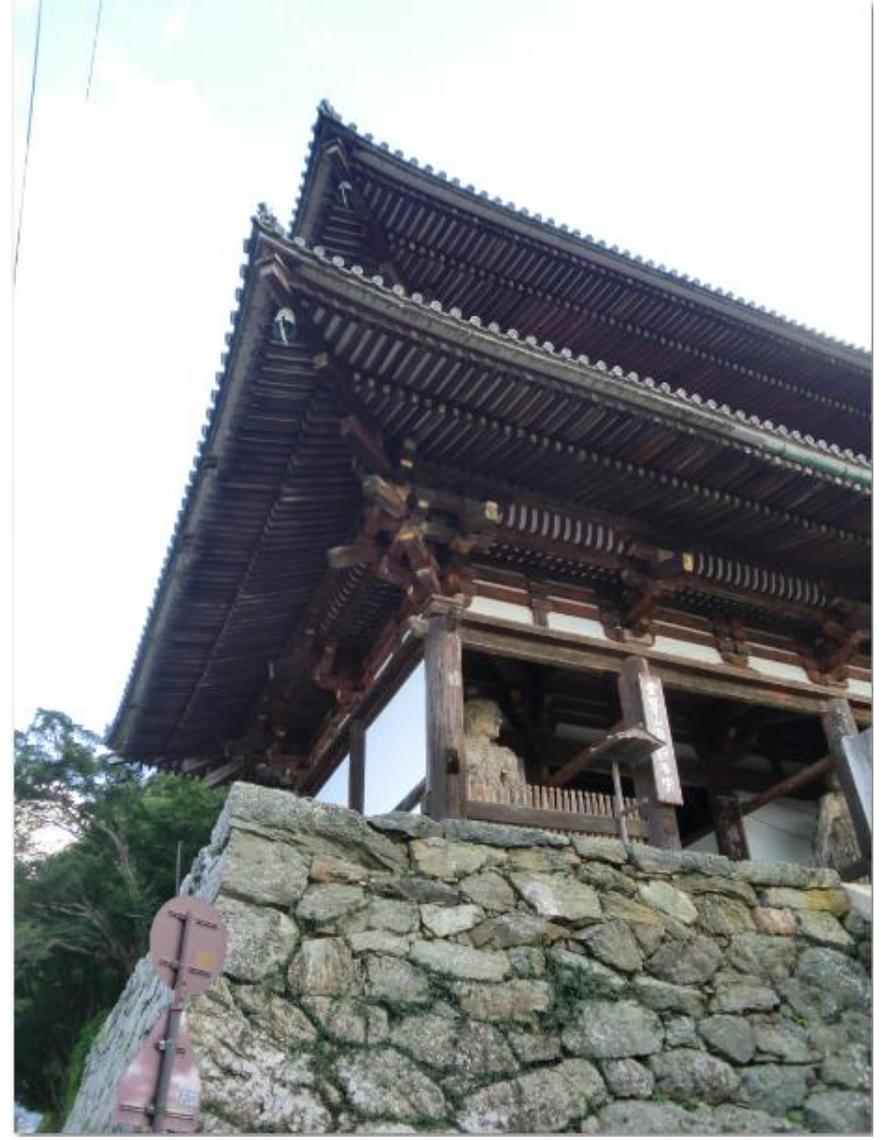


1456年再建







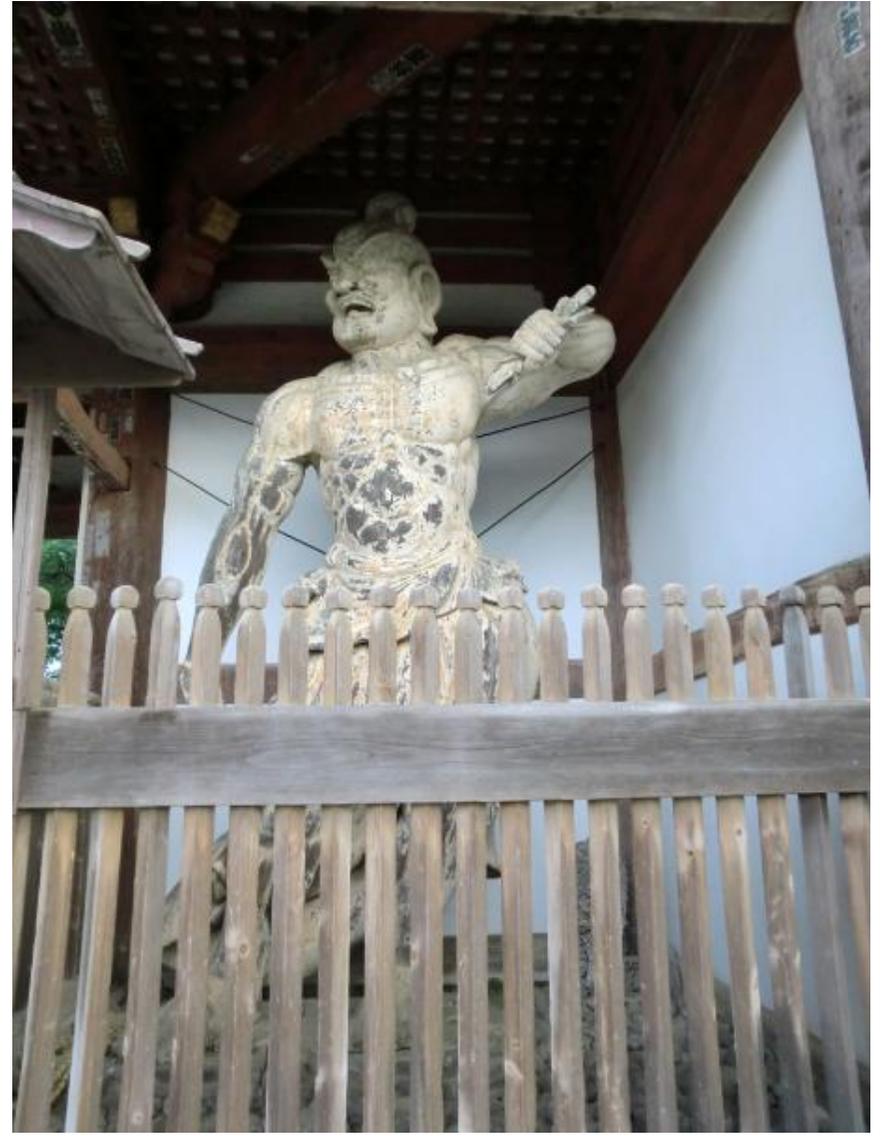
























次はやはりすぐ近くの吉野神宮



参考ホームページ

<http://www12.plala.or.jp/HOUJI/jinja-2/newpage758.htm>

裏鳥居



裏手水舎



東門



表鳥居



神門





外拝殿



表手水舎



透塀と裏手水舎





裏鳥居





当日の宿泊先からの景色





吉野川



